

「縄文草創期シンポジウム 2012—起源論を超えて—」

東海縄文研究会主催
物質文化研究会共催

主旨 縄文草創期に関する問題意識の多くが、大陸からの伝播を前提とした起源論に向けられてきた。その背後には北海道を除く列島を、所与のあるいは等質的な受け皿として固定化する意識が潜在していた。しかし、1960年代には「土器の起源」と考えられ、列島の等質性を象徴するかのように理解されてきた隆線文土器は、1980年代以降相次いだ発見によって最古の座を譲ることになった。隆線文以前の土器と石器の多様性は、単系的な「伝播と拡散」モデルでは縄文時代への移行を説明できないことを示しているが、草創期論の新たな枠組みが提示されることはなかった。そうした状況のなか、C14年代測定法の改良によって旧石器時代との境界は引き上げられ、草創期は「氷期」へと突入し、その継続時間は5000年以上にも及ぶことになった。早期以降の縄文時代にも匹敵する長さである。

今回のシンポジウムでは、出現期の土器と石器の多様性を検証したうえで、隆線文土器出現の意義を問い、草創期における広域的な連動と地域性の出現過程を明らかにする。その議論を通じて草創期研究の新たな枠組みを模索したい。（文責：池谷信之）

日時 2012年12月1日（土） 10時00分～17時00分

会場 南山大学 R棟4F R49教室

受付開始 10時00分
開会挨拶 10時30分
主旨説明 10時35分～45分
基調講演「1962年縄文土器起源論争の回顧と展望」 大塚達朗（南山大学）
10時45分～12時00分

昼食

発表1「九州における縄文時代草創期石器群と広域連動」 芝 康次郎（奈良文化財研究所）
13時00分～13時40分

発表2「列島における出現期石鏃の系統と伝播—形成過程論への布石—」 及川 穰（島根大学）
13時50分～14時30分

休憩

発表3「東海地方における“非神子柴的世界”」 池谷信之（沼津市文化財センター）
14時50分～15時30分

討論（進行/池谷）「起源論を超えて」 15時40分～16時50分

閉会挨拶 16時50分～17時00分